

## 大阪、東京など 4都府県に緊急事態宣言

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部（本部長＝菅義偉首相）は4月23日に会合を開き、東京都、大阪府、京都府、兵庫県の1都2府1県について、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態措置を実施すべき区域とすることを決めた。

実施すべき期間は、4月25日から5月11日までの17日間。

また、緊急事態宣言に伴い「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を改訂した。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染状況については「新規報告数は3月上旬以降、大都市部を中心に増加が続き、重症者数も増加が見られた。また、影響が懸念される変異株の感染者の増加がみられ、急速に従来株からの置き換わりが進みつつある」としている。

また、COVID-19の対処に関する全般的な方針に、「COVID-19の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすため、迅速なワクチンの接種を進める」を加えた。人流の抑制に関連して、職場への出勤について、在宅勤務（テレワーク）活用や大型連休中の休暇取得の促進等により、「出勤者数の7割削減」の数値目標を設定している。交通事業者に対しては、「平日の終電の繰り上げ」「週末休日における減便」など、必要な協力を依頼するとした。

医療提供体制の確保に関しては、『「相談・受診・検査」～「療養先調整・移送」～「転退院・解除」まで、一連の患者対応が目詰まりなく行われ、病床・宿泊療養施設が最大限活用されるよう留意しつつ、感染拡大時に確実に機能する医療提供体制を整備する」と記載された。

都道府県に対しては「政府による医療人材の応援派遣の支援や、感染急拡大時の時限的緊急避難としての不急の一般医療の制限も含めた、COVID-19対応に必要な病床・宿泊療養施設を速やかに確保すること。また、健康観察業務の業務委託等により、宿泊療養者・自宅療養者に対する健康管理体制を確保する」ことなどを求めている。

### ■愛媛をまん延防止等重点区域に

この日の会合では、愛媛県を、まん延防止等重点措置を実施すべき区域に加えた。期間は4月25日から5月11日までの17日間。

併せて、東京都、大阪府、京都府、兵庫県の、実施すべき区域から除外した。

## オルミエント錠を COVID-19治療薬に承認

厚生労働省は4月23日、医薬品オルミエント錠について、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する効能・効果の追加を承認したと発表した。

新たに承認されたのは「オルミエント錠 2mg、同 4mg」（一般名：バリシチニブ、日本イーライリリー）。ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤で、関節リウマチ治療薬として使用されている。

効能・効果は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）による肺炎（ただし、酸素吸入をする患者に限る）。レムデシビルとの併用で、1日1回4mgを経口投与することとした。

同社が昨年12月25日に承認申請していた。

医療情報③  
厚生労働省  
合同会合

## アナフィラキシー報告、 100万回あたり46件に

厚生労働省は4月23日、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会（部会長＝森尾友宏・東京医科歯科大学発生発達病態学分野小児科教授）と薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（調査会長＝岡明・埼玉県立小児医療センター病院長）の会合を合同で開き、新型コロナウイルスワクチン「コミナティ」の副反応報告について検討した。

医療機関からの副反応疑い報告は、2月17日から4月18日の間に、3298件の報告があった。この間の推定接種回数193万111回の0.17%にあたる。このうち重篤報告は417件で、0.02%だった。

また、アナフィラキシーの副反応疑い報告は492件。100万回接種あたりでは255件となった。このうち、ブライトン分類に基づき評価された、ブライトン分類1～3の報告は88件で、100万回あたり46件となった。

4月18日までの61日間に、死亡として報告された事例は10件あった。

報告された死因は、出血性脳卒中が4件、心不全が2件など。個別例は以下のとおり。

- ▼61歳女性（接種1回、死亡までの期間3日、死因：くも膜下出血）
- ▼26歳女性（接種1回、死亡までの期間4日、死因：小脳出血・くも膜下出血）
- ▼72歳女性（接種1回、死亡までの期間3日、死因：脳出血）
- ▼65歳男性（接種1回、死亡までの期間19日、死因：急性心不全）
- ▼62歳男性（接種2回、死亡までの期間1日、死因：溺死）
- ▼69歳女性（接種1回、死亡までの期間9日、死因：脳出血）
- ▼51歳男性（接種1回、死亡までの期間14日、死因：心室細動）
- ▼73歳男性（接種2回、死亡までの期間8日、死因：敗血症・化膿性脊椎炎）
- ▼37歳男性（接種2回、死亡までの期間3日、死因：心肺停止）
- ▼102歳女性（接種1回、死亡までの期間4日、死因：誤嚥性肺炎・気管支喘息・心不全）

## COVID-19 自宅待機対応の 往診料、算定可

厚生労働省は4月21日付で、「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて（その42）」を、地方厚生（支）局や都道府県に宛てて事務連絡した。

都道府県等が、自宅・宿泊療養者に対する症状増悪時の健康相談対応を事業者に委託する場合に、以下には往診料を算定できるとした。

- ①最初に、患者または家族等患者の看護に当たる者が事業者に対して電話等により、症状増悪に伴う健康相談をし、
- ②相談を受けた事業者が、医師に対して当該患者に関する情報提供を行い、
- ③当該医師が患者等に電話等を行い、患者等から直接往診を求められ、患者への往診の必要性を認め、可及的速やかに患家へ赴き診療を行った場合

また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者の受け入れのために、特定集中治療室管理料等と同等の人員配置とした病棟において、COVID-19 患者または本来当該入院料を算定する病棟において受け入れるべき患者を受け入れた場合、「それぞれの入院料に係る簡易な報告を行うことにより、該当する入院料を算定することができる。

当該運用の開始に当たっては、運用開始の日付および人員配置等について、各地方厚生（支）局に報告する」とされている。

これについて、COVID-19 患者の受け入れ準備等により、運用開始までに報告が間に合わない場合、「事前に各地方厚生（支）局に相談し、運用開始日より該当する入院料を算定し、追って簡易な報告を実施する」ことで差し支えないとした。

## ワクチン接種用シリンジ・針、 6回採取／バイアルに

厚生労働省は4月19日付で、「高齢者向け接種以降に配布するシリンジ・注射針について」を、都道府県に宛てて事務連絡した。ファイザーの新型コロナウイルスワクチン「コミナティ筋注」の接種用シリンジ・注射針について、高齢者向け第5クール（5月10日の週および5月17日の週配送分、V-SYS上は「PF05」）以降、1バイアルから6回採取可能な組み合わせのシリンジ・注射針を配布するとしていた。

PF05 クールの希望量登録および分配における対応について、都道府県または市町村が、V-SYS上でワクチン等の分配を行う際のデフォルト値は1バイアル6回採取を前提とした数量

になることから、分配量の調整を行う際は留意するよう求めている。

また、手動でワクチン分配量を修正した場合は、注射針、シリンジの分配量も併せて手動で修正するとした。PF06 クールの希望量登録開始時、V-SYS 上は 1 バイアルから 6 回採取を前提とした数値（接種回数および箱数）が表示されるよう設定が変更されるとした。

また、高齢者向け接種以降に関する配布予定の希釈用シリンジは、日本ベクトン・ディッキンソンのBDルアースリップシリンジ3mL(希釈用)、注射針はニプロのフローマックスS25G\*1RBGA(O1-499)と示した。

医療情報⑥  
厚生労働省  
事務連絡

## ワクチン副反応への 医療機関の対応を事務連絡

厚生労働省は 4 月 21 日付で、「新型コロナワクチン接種後の発熱等の症状への対応について」を、都道府県等に宛てて事務連絡した。

新型コロナウイルスワクチン接種後に副反応を疑う症状で患者が相談した際の対応に当たって、医療機関等の留意事項を、以下のとおり示している。

### 【新型コロナワクチン接種後に起こりやすい症状の頻度等について】

約 2 万人の新型コロナワクチンの被接種者を対象として実施した「先行接種者健康調査」の中間報告において接種後に生じた症状の頻度等が報告されている。ワクチン接種後に患者から電話相談があった際の対応に当たって、参考にするよう求めている。

※厚労省ウェブサイト「新型コロナワクチンの接種後の健康状況調査」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_kenkoujoukyoutyousa.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_kenkoujoukyoutyousa.html)

### 【新型コロナワクチン接種後の発熱等の症状への対応について】

ワクチン接種後に発熱等の症状で患者から電話相談があった際に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を含む、他の疾病との鑑別が必要になることが考えられるとし、以下のような状況に応じた対応を依頼している。

- ▼ワクチン接種後の副反応による症状については必要に応じ解熱鎮痛剤等による症状の緩和を図る
- ▼症状が継続する場合やワクチンの副反応としては典型的でない症状がみられる場合には他の疾病を考慮して対応する
- ▼とりわけ、COVID-19 が疑われる場合には必要な検査を実施する、または検査を実施できる医療機関を紹介する

**【先行接種者健康調査の中間報告において得られた、  
他の疾患との鑑別に当たって参考になる可能性のある知見】**

- ▼ワクチン接種後に、発熱・頭痛・倦怠感の症状は、1回目の接種後よりも2回目の接種後のほうが高い頻度で報告されている
- ▼ワクチン接種後の発熱は、接種後翌日までに起こることが多く、その多くは2日間以内に解熱している
- ▼COVID-19の症状として報告されている、咳や息切れ等の呼吸器症状や、味覚障害・嗅覚障害は、ワクチン接種後の症状としてはほとんど報告されていない

医療情報⑦  
厚生労働省  
事務連絡

## 基礎疾患ある人への接種、 高齢者完了前でも可に

厚生労働省は4月21日付で、「新型コロナウイルスワクチンに係る予防接種の高齢者に次ぐ接種順位の者（基礎疾患を有する者等）への接種の開始等について」を、都道府県等に宛てて事務連絡した。

事務連絡では、新型コロナウイルスワクチンの接種に関して、医療従事者等への接種完了を待たずに4月12日の週から高齢者への接種が限定的に始まっているが、その次の接種順位とされている、「基礎疾患を有する者、高齢者施設等の従事者および60歳から64歳の者」、およびその他の者への接種の流れ等について、以下のように示している。

### 【基礎疾患を有する者等への接種開始等の考え方】

「高齢者」から「基礎疾患を有する者等」に進む際に、高齢者への接種の完了を待つ必要はなく、自治体において、高齢者の接種状況や予約の空き状況を踏まえ、順次、次の順位へ進める。この際、基礎疾患を有する者等への先行予約期間の設定などにより、優先的に接種できる機会を設ける。

### 【運用イメージ】

自治体において高齢者への接種状況や予約の空き状況を踏まえ、可能な限り接種の空白期間が生じないように、基礎疾患を有する者等の先行予約、接種を開始することとする。

開始のタイミング例として、以下などを挙げている。

- ▼高齢者の接種の予約が埋まらなくなってきた
- ▼接種実績などから高齢者の1回目の接種が一定程度進んだと考えられるタイミング

### 【接種券の送付】

「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引き（2.2 版）」では、「それ以外の者」については、「6 月に発送できる準備を行っておく必要がある」とされている。

ワクチンは、6 月末までに少なくとも 1 億回分のワクチンが確保できる見通しで、標準的には 6 月中旬に接種対象者に対し接種券を送付できるよう、準備を進める必要がある。

医療情報⑧  
日本医師会  
定例記者会見

## AI ホスピタル推進センターが 活動開始

日本医師会（日医、中川俊男会長）は 4 月 21 日の定例記者会見で、「AI ホスピタルによる高度診断・治療システム」プロジェクトを社会実装するために進められている、日医 AI ホスピタル推進センターの活動を開始したと発表した。内閣府と日医、医薬基盤・健康・栄養研究所の三者が昨年 6 月、共同記者会見で、「AI ホスピタルによる高度診断・治療システム」の社会実装プロジェクトの開始を発表している。これを受けて日医では AI ホスピタル推進センターを設置した。これまでに業務規程を整備、同センターの業務として、以下を挙げた。

- ①医療 AIPF 事業者の認定業務
- ②医療 AI サービス事業者の登録業務
- ③医療 AI サービスの監修業務
- ④利用者の登録業務（医師・医療従事者〈個人〉の登録／医療機関等の登録）
- ⑤普及推進業務
- ⑥医療用語管理業務
- ⑦知的財産管理業務

また、同センターの 2021 年度の活動として、以下を組織決定したと報告した。

- ▼医療 AI サービスを提供する事業者登録
- ▼医療 AI を利用する医師・医療機関の施行運用への参加登録

今年度の試行運用で、医療 AI サービスを提供する事業者は 10 社程度、利用する医師の参加登録は 50 人程度、募集する方針。

医療情報⑨  
政府  
公表

## コロナワクチン接種、 2回目まで終了は約 85 万人に

政府が公表した新型コロナウイルスワクチンの接種実績によると、医療従事者に対する 4 月 22 日の接種は、1 回目が 12 万 8634 回、2 回目が 2 万 1855 回の、合わせて 15 万 489

回だった。

2月17日からの合計では、1回目が161万6515回、2回目が84万9051回で、合わせると246万5566回となった。

高齢者等に対する接種では、4月22日には1回目のみ7375回接種。4月12日からの11日間では、合わせて5万1479回だった。いずれも1回目。

医療情報⑩  
4月25日  
現在

## 国内のCOVID-19死者数、 1万人に迫る

厚生労働省のまとめによると、日本国内の新型コロナウイルスへの感染状況は、4月25日零時時点で、前日より5439人増えて、合わせて56万2141人となった。

このうち、チャーター便による帰国者が15人、空港等検疫が2634人、国内事例が55万9492人。国内の死者は、前日から59人増えて9913人となった。

すでに退院している人は、前日より3367人増えて50万1609人となった。

入院治療を要する4万9806人のうち、人工呼吸器装着または集中治療室に入室している重症者は、前日から27人増えて864人だった。

4月19日までの国内（国立感染症研究所、検疫所、地方衛生研究所・保健所等）のPCR検査の実施件数は1186万6268件だった。

4月25日零時時点での都道府県別の陽性者数は、東京都が13万4538人（死亡1872人）で最も多く、次いで大阪府の7万4509人（死亡1340人）、神奈川県が5万2190人（死亡808人）、埼玉県の3万6673人（死亡737人）、千葉県の3万2357人（死亡615人）などとなっている。

### ■感染者100万人超、25カ国に拡大

厚労省のまとめ(図表)によると、4月25日15時時点の世界の新型コロナウイルスへの感染状況について、米国では感染者が3204万人あまりに達した。死者数は約57万2000人となった。

インドでは、感染者が約1661万人に達し、死亡者は約19万人。

ブラジルでは感染者数が約1431万人、死者は約39万人。

このほか感染者が100万人を超えているのは、フランス、ロシア、トルコ、英国、イタリアなどの合わせて25の国と地域、10万人を超えているのは日本を含め、合わせて91の国と地域。感染者が1万人を超えているのは144の国と地域。

ヨーロッパでは、フランスで感染者が約553万人に達したほか、ロシアでは約470万人、英国で約442万人となっている。

イタリアで約 395 万人、スペインで約 347 万人、ドイツでは約 329 万人となった。

さらに、ポーランドで約 275 万人、ウクライナで約 207 万人、チェコで約 162 万人、オランダで約 148 万人、ルーマニアで約 104 万人となった。

中南米では、ブラジルのほか、アルゼンチンで約 285 万人、コロンビアで約 276 万人、メキシコで約 233 万人、ペルーで約 175 万人、チリで約 116 万人の感染が確認されている。

アジアでは、インドのほかインドネシアで感染者が約 164 万人となったほか、フィリピンで約 99 万人、パキスタンで約 79 万人、バングラデシュで約 74 万人などとなっている。

中東地域では、イランで感染者が約 238 万人となったほか、イラクでも約 102 万人となっている。アフリカ諸国では、南アフリカで感染者が約 157 万人、モロッコで約 51 万人となっている。

(図表)国別の感染者・死亡者の状況

国・地域	感染者	死亡者	国・地域	感染者	死亡者
米国	32,044,974	571,920	フィリピン	989,380	16,674
インド	16,610,481	189,544	ベルギー	972,041	23,990
ブラジル	14,308,215	389,492	スウェーデン	938,343	13,923
フランス	5,534,656	102,872	イスラエル	837,974	6,350
ロシア	4,699,988	106,108	ポルトガル	833,964	16,959
トルコ	4,591,416	38,011	パキスタン	790,016	16,999
英国	4,418,710	127,670	ハンガリー	767,190	26,420
イタリア	3,949,517	119,021	バングラデシュ	742,400	10,952
スペイン	3,468,617	77,591	ヨルダン	700,423	8,563
ドイツ	3,291,293	81,610	セルビア	677,972	6,196
アルゼンチン	2,845,872	61,474	スイス	646,509	10,594
コロンビア	2,757,274	70,886	オーストリア	606,954	10,070
ポーランド	2,751,632	65,222	レバノン	519,615	7,118
イラン	2,377,039	69,120	モロッコ	509,037	8,988
メキシコ	2,326,738	214,853	アラブ首長国連邦	508,925	1,569
ウクライナ	2,071,142	43,884	サウジアラビア	411,263	6,887
ペルー	1,754,150	59,440	ブルガリア	397,100	15,859
インドネシア	1,636,792	44,500	マレーシア	390,252	1,426
チェコ	1,618,068	28,920	スロバキア	379,476	11,458
南アフリカ	1,574,370	54,125	エクアドル	372,754	18,158
オランダ	1,478,144	17,269	パナマ	362,696	6,207
カナダ	1,180,065	23,912	カザフスタン	358,834	3,311
チリ	1,162,811	25,742	ベラルーシ	351,674	2,483
ルーマニア	1,044,722	27,267	ギリシア	331,730	9,950
イラク	1,025,288	15,217	クロアチア	321,372	6,815